

葛井寺

葛井寺境内には 400 年前に建てられた門、樹齢約 100 歳の藤、千手観音像がある。

葛井寺は国の安全を祈願して、8 世紀に聖武天皇（724 年 - 749 年）の勅願で創建された。9 世紀には豪族である葛井氏族の氏寺となった。藤井寺市の地名はこの寺に由来する。「藤（ふじ）」は花の名前で、寺には溢れんばかりに藤が生えている。

寺は建てられてから火事や地震で何度も崩壊した。現在の本堂は 1770 年代に建てられたものであるが、残存する最古の建造物は、西側の入り口にある切妻造の門だ。これは豊臣秀吉（1536 年 - 1598 年）の息子である豊臣秀頼（1593 年 - 1615 年）により 1601 年に寺の正門として建立された。桃山時代（1583 年 - 1603 年）に人気があった意匠性に富んだ作風が見られる。

本堂の中には千手観音像がある。日本ではたくさんの手を持つ観音像が「千手観音」と呼ばれるものの、大半は 42 本しか腕がない。葛井寺の観音像はその名の通り、1,043 本の腕を持っている。一番大きな 2 本の腕は合唱しており、残りの 1,041 本はその背中から伸びている。そのうち 40 本は大手で、象徴的な宝を持ち、残り 1001 本の小手はクジャクの尾のように後方で開いている。小手の一本一本の掌にはそれぞれ眼が描かれている。観音が千手を持つ理由には諸説あるが、千手千眼は観音の力がすべての場所へと及び、すべての人に届くことを表わしているという説が有力である。観音像は、毎月 18 日にのみ一般公開される。